B2 ニュースレター

2016/3/15

写真：２月２８日開催の「世界湿地の日イベント~ブナ北限の里かんじきハイク~」

～３月のオススメイベント～
きこり屋さんと一緒に！カラマツ伐倒体験

来てみなけりゃ、わからない！冬の黒松内移住体験

【黒松内町】2 月１９日~２１日

町企画調整課が担当する移住促進事業の支援企画としてＢ２が協力し、試験的な移住体験ツアーを企画した。町では毎年秋に東京、大阪、名古屋などで開催される移住フェアに役場職員を派遣、黒松内の移住ＰＲを行っている。このＰＲ期間を利用し、「冬の移住体験ツアー」の申し込みを募り、北海道移住に向けた不安の解消や移住者の先輩たちとの交流を通じ、黒松内ファンを増やしていくことを目標に、１組ごとの個別対応でオーダーメイドの移住プログラムを作った。記念すべき、申し込み第１号となったのは、東京在住の中村さんご夫妻だ。中村夫妻は、２年後に定年を迎える御主人の退職を機に北海道移住を計画中だが、夫婦伴に学生時代より熱気球フライトを趣味としており、道内で熱気球が盛んな上士幌町にも幾度となく訪れ、移住候補地にもなっている。黒松内での移住体験を申し込んだ理由を佐藤さんに伺うと「移住フェアにお邪魔して、黒松内が環境にやさしい町づくりをしているという印象を持ったから。全国の田舎町が熱心に移住ＰＲをされているが、うちの町はこんな町だ！という特徴がないと惹きつけられるものがないと思います」というコメントが返ってきた。３日間の移住体験では、ブナセンター、道の駅、トワ・ヴェール、マナヴェール、病院など主要施設の見学や先輩移住者宅を訪問、また、市街地を歩き、商店巡りも行った。最終日、歌才ブナ林へスノーシューハイクに出かけると「市街地のすぐそばにこんな森があるなんて、素晴らしい環境ですね！暖かい季節にも歩いてみたくなりました」とご夫妻そろっておっしゃってくれた。

除雪機の操縦を体験する中村さん　※写真は北海道新聞後志版の記事より抜粋

最後に３日間の感想をお二人に聞いてみた「移住者の方々にお話しを聞けて良かった。移住者訪問は、個人ではアレンジが難しいと思うので、このようなプログラムはありがたい。お会いした移住者で上田さんや岡田さんのモノづくりへの信念やライフスタイルが印象的だった。また、三浦さん、加藤さんから「田舎暮らしの心得」について率直な意見が聞けたことも良かった。是非、また黒松内に来たいと思います」移住ツアーは、今後も継続して取り組んでいく予定です。（編集長）

山に登れば気分爽快
－歌才ブナ林の奥地・歌才ブナ林縦走－
天然記念物・歌才ブナ林の散策路、終点看板より先は積雪期でなければ歩くことはできない。エキセントレッキングガイド・辻野健治氏と仲間たちが終点の向こう側に挑んだ。　ページ２

黒松内今昔物語 ～黒松内山道こぼれ話～
作開観音寺と金木宿
文：北村　英芳　ページ３

ビーチガールズに聞く 澤田奈那恵さん　ページ４

昨年の春、地域おこし協力隊の一人として札幌より黒松内町に着任した澤田奈那恵さん(25 歳)にお話を伺った。さっぱりとドライな語り口から札幌と黒松内での暮らしの違いや類似点などフレッシュウーマンらしい感性で答えてくれた。

赤井川体験農園
今月末よりトマトの育苗はじまります！

～山に登れば気分爽快～　チョットだけ秘境迷歩・・・・その参「歌才ブナ林の奥地・歌才ブナ林縦走」

文・写真　ノースランド　辻野健治

こんにちは～　ブナの森登山ガイド辻野です。
秘境つながりで、ちょっとだけ秘境の話しをします。えっ～チョットだけ？卑怯（ﾋｷｮｳ）だなー、そう秘境（ﾋｷｮｳ）ですから、あれ？定番のフレーズになったかな。皆さんがこよなく愛している、歌才ブナ林。春、夏、秋と往復３時間程度で、どっぷりと北限のブナ林を楽しめる遊歩道です。終点には時代を感じる木柱と、終点と書かれた看板があります。あっ　もう一個、鳥獣保護区の看板もありました！さて　終点から先には？今は踏み跡がありません。以前は、朱太川まであったらしいのですが、この先は胸の高さまである笹を越えて行かなければ、、、極めて・・無謀です、それよりも植生保全のため止めてください、よろしくお願いいたします。散策路がないということは春夏秋には訪れる事が出来ない所・・季節限定の秘境となります！この季節限定の秘境を訪ねるには、しっかりと雪の積もった季節が最適な散策時期です。スノーシューを履いて、さぁ出発！人の少ない冬でも天然記念物の歌才ブナ林入口の看板までは、人が踏み入れたトレースがあります。しかし、トレースが残るのはせいぜいギンﾘｮｳ草の坂くらいまで、さあ！ここから真っ白な雪原に自分のトレースを刻みます。歌才ブナ林終点の看板にたどり着ければ、目的地の１/３を歩いた事となります。さて、お楽しみはここから、この先には通称”三の沢”（襲名者は私）があり、これがとても深い沢です。さらに幾千の小沢を越え、通称”四の沢”(襲名者は私) に到達します。これも急峻な岸を持つ沢ですが、さらに進み、通称”地の字尾根の崖”を下ると朱太川に出ます。朱太川河岸を上流に進み、河岸を２回高巻きして、通称”６の沢”を下り、そのまま上山川に合流します。上山川を渡渉し・・・と　色々とあり、登山と変わらない位・・・たのしいー！です。最後に貝殻橋にたどりついたあなたは、言葉で言い表せない、充実感でいっぱいです。さあ　行って見ましょう！

FOOD＆DRINK

Gun-wu Kitchen　Road to Niseko ～岩宇地区を食でＰＲ～

岩宇キッチンプロデューサーの一人で The Hero 代表取締役・高橋氏に誘われ、ニセコ町ヒラフ地区のコンドミニアム駐車場で開催されている食のイベントを視察した。岩宇地区４町村（泊村・岩内町・共和町・神恵内村）の連携強化プロジェクトとして、「国際リゾート・ニセコ」に集まる外国人スキー客へ珍味、イカ焼き、たら丸焼き、魚ロッケ等、日本海に面した岩宇地区の海産物で作るカジュアルフードを販売、若手有志が各ブースで食を通じた地元 PR 活動を展開する。片言ながら英語を使い、外国人客に試食を呼びかける光景は新鮮だ。「プリーズ・トライ？」「ハウロング・アー・ユー・ステイング・イン・ニセコ？」など、雪の降る中、多国籍な来訪者とコミュニケーションをとる姿に、やりがいが感じられる。「アイ・アム・フロム・イワナイ、ドゥーユーノー・イワナイ？」「ノォーー」。国際リゾート・ニセコで異国からのスキー客が日本人を見かけることは少ないと思う、ましてや日本人と会話することはほとんどないだろう。その土地の風土を感じることが旅の醍醐味であるが、パウダースノーの下に眠る土に触れてこそ、記憶に残る旅の思い出となるだろう。※Gun-wu Kitchen は３月 11 日で今シーズンのイベントを終えた。

体験農園　今年のラインナップは？

今年、リフレッシュの年となる赤井川地区の体験農園は、４月より名称変更を予定している。現在、新しい呼び名を非公式に募集しているが、決定後に次号ニュースレターでお伝えしたいと考えている。さて、昨年度はハウス内で 13 種のトマトと露地栽培でトウキビ・ホワイトショコラを栽培した。今年は、昨年同様トウキビのほうはホワイトショコラを栽培、トマトに関しては、品種を２種類に絞ることにした。その主力品種は、シシリアンルージュである。シシリアンルージュはトマトの本場イタリアの地中海に浮かぶ「美味しいいトマトの産地」シシリア島南部パッキーノ地方で育種開発されたトマトである。ネット検索すると、シシリアンルージュは調理してもトマトの中の水分が逃げにくく、オリーブオイルやサラダオイルを果肉の中に取り込む特徴がある。そのため簡単調理ができ、トマトの旨み成分であるグルタミン酸とオイルのドロッとした感じが絡み合い濃厚な味わいになるそうそうだ。煮込みや味付けに手間がかからないということは、ズボラな方でもコクのあるおいしいパスタソースができるということ。もちろん、生でも美味しいので７月末頃からの収穫・販売をお待ちいただきたい。◎マルシェでの販売も予定

<<黒松内今昔物語>>　～黒松内山道こぼれ話⑤～

－作開（さっかい）観音寺と金木（かなぎ）宿－　文：北村英芳

枡屋（カクジュウ佐藤）定右門・栄五郎親子が黒松内山道を開削する前の年の安政２年（１８５５）、青森県人金木新吉ほか７名は作開村（※当時はベッテ又はベットイ村と呼ばれていた）の各所に開墾のため移住した。取締人の金木新吉は、現在の作開墓地の南側を開墾地として選び住居を構えた。春先は歌棄の鰊場で働き、夏場は農業を営みながら宿も開き、幕末の頃には軍用旅舎としても使われたという（※註１）。私事になるが、新吉は母方の５代前の御先祖様であらっしゃる。 右の写真は、「北海道立文書館」のホームページで見つけた、慶応元年（１８６４）時のオタスツ場所（歌棄村）住民の「宗門人別改帳（現代の住民台帳？）」（※註２）で、御先祖様・新吉の家族構成と名前・年齢等が書かれている。ネット検索でこれにたどり着いた時は、ちょうど安ウイスキーの水割りも無くなった頃で、あまりの感動に１日１本と制約された缶ビールの２本目の封を開けてしまった。さらに読み進むうち、安政２年と伝えられていた新吉達の入植した年は、さらに１９年もさかのぼる天保５年（１８３４）ということも書かれていて、またまた感激し、いつの間にか冷蔵庫の残りの缶ビールに手を伸ばしていた。ちなみに、私は「アサヒ・スーパードライ生」がいっち好きです。 以下の文は、津軽海峡のプラキストン線で有名な「Ｔ・Ｗプラキストン」が、明治の始めに黒松内山道を通ったときの日記（※註３）です。『・・その次は、ジプト（朱太）川の支流に向かうが、この川は寿都湾に注ぎ、・・（中略）・・この川の樹木の茂った谷は、クウノンタイ（観音岱）まで続いている。ここには、山から道路の東の方へ突き出ている丘の上に、いささか見栄張った外観をした宿が二軒あり、また石の記念碑が一基建っているが、それにまつわる話について私は知らない・・（以下略）』この文面から推測できる場所は、現在も観音岱と呼ばれる作開墓地辺りだと考えられます。「いささか見栄張った外観をした宿が二軒」と書かれている一軒は金木宿、そしてもう一軒は作開観音寺（※註４）だと思われます。外国人であるプラキストンの眼には、観音寺の外観も「見栄を張った宿」に見えたのではないでしょうか？

平成２８年３月３日　記

註１「黒松内町史・上巻」／作開・熱郛村戸長　小川弾治「後志国歌棄郡作開村起源」（１８８０年）

註２　Ｈ・Ｐの検索手順・・・「北海道立文書館」箱館奉行所文書→→２・東西蝦夷地御用所→→２・遠当守都（オタスツ）御用所／資料名「遠当守都外七ヶ場所永住並越年人別書上帳慶応元丑年十一月」「宗門人別改帳」（７／１３の項）

註３「蝦夷地の中の日本」Ｔ・Ｗプラキストン著　訳者　近藤唯一／八木書店、昭和５４年

註４　安政６（１８５９）年、歌棄・龍昌寺（曹洞宗）の説教所として現在の作開墓地あたりに開設。黒松内町最古の寺で、明治１１年の山道改修ルート変更後に現在地へ移転した。

美一 Beech Girls ～ビーチガールズに聞く～ ※ブナは英語で Beech(ビーチ)

澤田奈那恵(さわだ ななえ)さん

1990 年 8 月 2 日生まれ 札幌市白石区出身

Q.子供のころはどんな女の子でしたか？

A.小学生の頃は明るかったかな。。。白石の家の周りも今のように住宅だらけではなかったので、秘密基地をよくつくっていました！あと、運動会の応援団長もしていたので、けっこう活発だったかと。でも、高学年になるにつれ暗くなっていったかもしれません(笑)。

Q.黒松内でお気に入りの場所はありますか？

A.はい、ありますよ、添別ブナ林です。人があまり入らない森だからという理由ではなくて、草木染め用の草木やキノコなど歌才ブナ林と違って天然素材を採取できるところがいいと思います。

Q.実践している健康法、ストレス解消法はありますか？

A.学生のころから少林寺拳法をやっていたので、基礎体力づくりや精神を鍛えることに繋がっていると思います。今は少林寺やってないので体を動かしたいと思っていますね。なんせ、車の移動が多いので札幌にいたときのように電車の乗り換えや買い物等で歩くことがない、運動不足になっています。札幌では、地下鉄代の節約のため 2~3 駅位の距離は歩きましたから、歩くのはけっこう好きなほうなんです。ひたすら目的地まで歩くタイプですが、歩くと考えごとができるから、歩きながらいいアイデアが浮かぶことも多いですね。

Q.黒松内には、フットパスコースがあるのでカントリーウォークをしてみてはどうですか？

A.あー、10 kmとか長すぎてちょっと、、、例えば、街からトワ・ヴェールまで歩いてチーズホンデュでも食べてみるか！と思っても、帰り歩いて帰ろうとは。。帰路の送迎があればその気になるのですが。。札幌にいた時は、交通網が整備されているので帰りのことを気にせず歩けましたけど、田舎の交通機関は限られているので、一人で遠くまで歩くのは難しいですよ。

Q.最後に、黒松内に来てもうすぐ一年を迎えますが、札幌から田舎町に住んでみて、物質的にこれが欲しいなあ~といものがあったら教えてください。

A.そうですねー、、、札幌に住んでいるときはよく利用していたので、24 時間営業のコンビニ、カラオケボックス、ブックオフなんかがあったらいいなと思いますが、なくてもいいかとも思います。黒松内の友達とたまに岩内のカラオケボックスに行ったりするので、十分リフレッシュしてますよ！

編集長からひとこと。。。昨年 4 月、地域おこし協力隊の一人として黒松内にやってきた澤田さんは現在、道の駅トワ・ヴェールⅡのパン工房に勤務している。札幌の大学でコンテンツデザインを学んだ彼女は、自称'ディテールフェチ'普遍的なフォームの中に微妙に違う細部のデザインを見つけられるアイテムが好きだとか。黒松内の街についての印象をたずねると「地元、白石の川北に似ているので違和感がない」という答えが返ってきた。「北海道の一般的な分譲住宅地」という普遍的な形態の中に、黒松内だけの細部を見つけ、どのように楽しみ、共有できるか？イマドキ世代代表のひとりとして注目したい。

Music ～DJ マミの音楽質～

セッションドラマー 村上'ポンタ'秀一

今回は「3 月だから卒業とか？そんな感じのテーマでヨロシクお願いします！」編集長に言われたわけですが、「卒業」をテーマにした歌はたくさんあるなか、私の中でお勧めしたい歌や曲がぱっと浮かばず、、、ネットで検索してみると、赤い鳥の名曲「翼をください」に目が留まりました。最近、日本の天才ドラマー 村上"ポンタ"秀一の「ポンタ、70 年代名盤を語る、俺が叩いた。」という本を読んだばかりで、そこには、この辺のジャンルが好きな音楽ファンの間ではとても有名な話で、まだ無名だったポンタが赤い鳥のドラムのオーディションに参加した時の破天荒なエピソードが詳しく書かれております。ぜひ本書を読んでみてください。 本お貸しします。 文：菅原正史

「俺が叩いた ポンタ、70 年代名盤を語る」 村上'ポンタ'秀一 (著) 出版社：リットーミュージック 2,160 円(参)

イベント情報 21st Mar.2016

<きこり屋さんといっしょに カラマツ伐倒体験>フォレストツーリズム主催

角十地区の個人所有のカラマツ伐倒依頼を受けたきこり屋・金澤俊哉さんと森の生活を楽しむ会

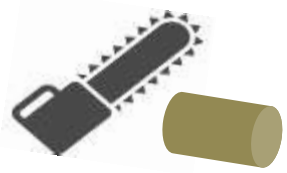
フォレストツーリズムが企画した林業の実践的な体験イベントです。

【集合場所】黒松内道の駅トワ・ヴェールⅡ

【集合時間】午前 9：00 ※午後 2 時頃終了

【定 員】10 名程度

【参 加 費】@2,000 円（保険、講習料、材料費など）



※お申込みお問い合わせは、フォレストツーリズム代表・本間さんまで 携帯：009-5229-2056

木にふれ、森に学ぼう

～伐倒体験の内容～

伐倒基礎知識＞安全確保の方法＞チェーンソー基礎技術＞伐倒基礎技術＞枝払いの基礎知識

※マイチェーンソー、マイヘルメット、皮手袋などお持ちの方はご持参ください。汚れても良い服装で。

発行人：ブナ北限の里ツーリズム 発行日：平成 28 年 3 月 15 日 次号発行予定は 2016 年 6 月末 ブナ北限の里ツーリズム事務局 TEL&FAX:0136-72-3597